第１回　公民館グランドデザイン検討委員会議事録

日時　令和２年７月４日（土）
　　午後２時３０分～午後４時３０分
会場　生命の海科学館　メディアホール

１　開会
２　あいさつ
３　事務局からの説明
４　社会教育・公民館について
～以上略～

５　討議
委員長
　事務局から２つの提案がある。
　１つは、社会教育機能を行う拠点として中央公民館（生涯学習センター）を設置
　１つは、地域交流拠点機能を現在の公民館を交流館（仮）として設け、小学校と複合化

委員
　中央公民館に集約する場合、業務内容によるが高齢者が徒歩や自転車で行けなくなるため、移動手段まで考えないとまずい気がする。
⇒事務局
　講座すべてを中央で行うのではなく、今の公民館を使って中央から講師派遣する等して開催できると良いと考えている。

委員
　地域支え合い座談会でくるりんバスの活用の話も出た。この検討委員会とリンクする部分があると思う。そういうものの利用で高齢者の移動がしやすくなることも一考したら良い。

委員
　中央公民館では高齢者の移動手段とかあるが、費用がかかるので一つにまとまるなら良いと思う。
　変えようと思う問題があるなら、今の公民館でしていることがよく分からないと言うこともあり、竹島小に府相公民館が来て、シニアと子どもたちが交流館と言う形の方がうまくいけば、何をしている所か分からないと言うことも無くなり、将来はうまくいくのかと思います。
⇒委員長
　交流館の名称変更でイメージが変わり、良いのでは。

委員
　学校の中に新しい公民館ができたが、（私たち）夫婦の間ではやっていることが分からな

い、中はどうなっているのかと話しているレベル。
　例えば、玄関口にやっていることの看板があれば、それだけでも地域は分かるかも。
⇒委員長
　地域の方が運営している公民館は、どうしても委員会の中心メンバーや関連する人たちが集まりやすい傾向があり、その他の人には馴染みが低くなる。そこをどう打破するかが大きな課題で、入り口ロビーを入りやすいレイアウトにする等はよくやられている。

委員
　府相公民館の自主グループの、旧府相公民館と竹島小学校併設の新公民館に参加した。やっぱり小学生の声が聞こえる中で、すごく明るい雰囲気で高齢者の方が活動されている印象があった。
　こういう馴染みの近い中で交流でき、生きがいになる。今後いろんな企画で協力していく中で交流が生まれると思い、良いと思った。

委員
　子どもと高齢者の方が交流する、交流館は良いと思う。
　蒲南小（に通学する児童の総代区）が蒲郡公民館と小江公民館に分かれて、さらに府相公民館も地区が一部入って、３つの公民館に分かれている。
　大塚や西浦は地域がまとまっているが、バラバラな地域はどうやってやるのかすごく疑問。
　学校と公民館とどうやって結び付けるか見えてこない。
　理想はこれですが、どうしていくのかすごく疑問。
⇒事務局
　地区と学区を合わせるのは大変難しい話。地元に歴史があり、今合ってないから変えようとすぐにできる話ではない。公民館を学区に合わせる感じでどう運営できるか考えたいと思う。まだ良い案がなく、一つの課題として検討して頂きたい。
⇒委員長
　これは資料にもあるように検討課題でもあります。

委員
　老人会は公民館ではなく小学校といろいろ交流している。公民館について、今はまだ考えがまとまらない。
⇒委員長
　学校が、地域学校協働活動とか公民館と言う前に、地域と元々交流している事例もある。その関係は、おそらく地域学校協働活動が進む段階で具体的に検討する話題になると思う。

委員
　今の１１公民館が、中央公民館を市内で２から３、今までの公民館を地域交流館と言う話

は、ピンとこない。なぜ中央公民館を作るのかと思う。
　質問にあった中央公民館でいろんな講座をやり、各地区公民館は地域交流館という話、何故必要なのか。
　中央公民館となると常勤、市職員が付くとか、どうなるのかイメージがないから、ピンときていない。
　公民館は生涯学習講座も地域の交流拠点としても両方やっていくのが公民館の使命と思うので、中央公民館がいまいちピンとこない。
⇒事務局
　１１の中の２から３とは思っていない。１１は１１のままで、別に生涯学習課の中に中央公民館の機能をと考えている。社会教育部門として市職員等が専門で付く想定。そこで企画したものを地区公民館におろすイメージ。
　地元の公民館は社会教育も地域交流も両方やるべきで分ける必要はないという話でいくと、もちろんそこも知りたく思い、また話し合いをしていけたらと思う。
⇒委員長
　余裕のある市町では、地域公民館にも市職員を常駐させて、町の課題、地域の課題をくみ上げて、それを話題にする。さらに自主グループとして学習活動を定着さることができる。財政的にできない市町もあり、様々な工夫をしている。阿智村の事例は、事務局の提案にかなり近く、役場の職員は中央公民館だけ。各小学校区の公民館は地域の方が運営組織を作っている。こういう事例を調べてみると、もう少しイメージが変わるかも。

委員
　いろいろと資料を見て、やっぱり交流館にするのは良いと思った。
　話が変わるかもしれないが、やはり老齢化で、ボランティアとかいろんな活動で一番困るのは８０歳前に車を手放すこと。すると、一緒に来ていた孫も行けなくなる。
　これから共働きでないと生活できない、両親はほぼ居なくておばあちゃんに。小学校から帰ったら１、２時間でもおばあちゃんと付き合う。おばあちゃんが来られなくなると、いろんな企画で呼びかけても、おばあちゃんも子どもも足がない。
　くるりんバス、タクシー券があるが、将来はお年寄りとチビちゃんを乗せて（無料で？）周れたら良い。

委員長
　提案として中央公民館、交流館として機能を分ける場合、専門である社会教育の見地から、中央公民館に機能を一括するのはプラス面もマイナス面もある。
　プラス面
　蒲郡のように地域公民館を地域住民が運営すると、専門的な講座とか多種多様な学習活動がやりにくくなる傾向が社会教育研究でも指摘されている。どうしても地域活動に少し学びを付け、公民館活動とする傾向が出る。
　社会教育研究の中で、専門的な学び、地域課題を専門家から学びたい地域住民のニーズも

無くはない。それらに応えられる中央地区館的なもの、専門的な学習をする中央公民館を設けたほうが良いという意見もある。
　マイナス面
　地区館であった機能を一定中央に集約すると、地域課題が実施しにくくなるのも確か。
　５０年前の市町村合併の時に同様の現象があった。市町村合併で中央公民館を設置し、地区館から職員を中央公民館に引き上げた時に、元地区館が本当に貸館になってしまった事例。中央公民館にまとめるやり方を間違えると大変なことになるかもしれない。
　この提案で大事になのは、中央公民館の職員がどれくらい社会教育の専門的な知見を持って、地域住民と交流できてニーズを捉えられるか。職員の力量と、講座後にそれを自主グループ活動への提案ができるような柔軟性を持てるか。阿智村はうまくいっているが、中央公民館の職員がそういう力に長けていることが大きい。
　社会教育を研究する研究者は公民館という名称にはものすごく思い入れがある。
本心は公民館と言う名称にこだわって欲しいが、地域の集会所とかぶる懸念も理解する。と、市民センター、市民館、まちづくり館、まちづくり市民館という名称が良いのかなと。
　公民館は単に社会教育の場でだけでなく、学びを通して地域を作くるというもの。まちづくりって名称は１つの案だと思うが、交流館だと学習はどこにいくんだと、名称にその要素が見えにくくなってしまうのが若干心配。
　一方では委員の皆様の賛成意見もあり、名称はいろいろな意見交流ができればいいと思った。